

ベストクラス選定理由書

作成者：吉川昌慶・中原美佳・板垣遥夏・原田興道・井上陽稀・小野七海・HE YUTING

科目名称		聴覚障害児教育基礎技能（昼間クラス）	
		（担当教員名：中島武史）	
課 程	： 大学院（修士）	開講時期	： 前期
授業形態	： 講義	授業規模	： 30人以下
インタビュー対象教員名 中島武史 （実施日時： 7月24日； 実施場所：言語・教育・社会棟3階教育相談室1）			
インタビュー対象受講者名 田中眞苗・太田詳次郎 （実施日時： 7月25日、26日； 実施場所：自然、生活健康棟521教室）			
本授業の担当教員へのインタビューと、2名の学生へのインタビューにより2点の授業の特徴が明らかとなった。 1点目の特徴は、教員から学生へのフィードバックの充実である。本授業では毎回リアクションペーパーを配り、次の授業の始めの20分でフィードバックを行う。担当者は「学生の疑問が本当に知りたいことであり、そこをもっと深く考えてもらいたい」と語る。また、「すぐに答えることができない疑問はわかる範囲で回答し、次年度までに解説できるようにする」と述べ、自身も楽しんで行っていると話した。こうしたフィードバックは学生からも肯定的に評価され、授業評価のコメントでは、「学生の意見を大事にしてくれる」といったフィードバックに関する記述も多くあった。インタビューをした学生も回答の共有をすることで他者の疑問を知り新たな視点を得ることに繋がったと話した。 2点目の特徴は、授業のねらいである。担当教員は授業のねらいとして、受講者の聴覚障害に関する見方考え方を変えることを挙げており、聴覚障害について、知識を得るだけではない思考の転換を重視した授業を行っていると述べる。具体的には、前半の授業は教員が話すことは最小限で、学生同士のディベートを主としており、後半の5回は、手話指導の資格を持つゲストティーチャーを呼んで手話の実技を学んでいる。そこには、思考の転換には一方的な知識の伝達ではなく、多様な人の意見を聴くことが大切だとする担当教員の考えがある。インタビューをした2人の学生は共通してディベートがこの授業の中で印象的であったと述べ、他者との意見交流や新たな知識を身につけることで聴覚障害についての考え方が変わったと語る。加えて、ゲストティーチャーの回では音声禁止の手話のみの授業が行われ、ディベートと合わせて、実践的な取り組みが積極的に授業に参加しやすい雰囲気作りの一助となっていた。 上記の2点を理由として、聴覚障害児教育基礎技能をベストクラスとして推薦する。			